

平成30年11月定例教育委員会会議録

1. 開催日時 平成30年11月29日(木) 13時00分～15時00分
2. 開催場所 日野町役場 202会議室
3. 出席委員 今宿綾子教育長、山田めぐみ教育長職務代理者
高橋政宏委員、谷 信代委員、西村吉弘委員
4. 出席事務局員
教育次長 : 望主 昭久
学校教育課 : 参事 山添 美実 参事 吉澤 増穂
生涯学習課 : 課長 日永 伊久男 参事 加納 治夫
図書館 : 館長 高浪 郁子
子ども支援課 : 課長 宇田 達夫

今宿 教育長	<p>ただ今から日野町教育委員会定例会議を開会します。 本日の定例会議を議事日程に基づき進行します。</p>
今宿 教育長	<p>日程4の経過報告でございます。まず、私から主な経過を報告させていただきます。</p> <p>まず11月を振り返ってみますと、3日・4日に各地区の文化祭がございました。7地区とも工夫を凝らして開催していただきまして、大変多くの住民の皆様のご参加をいただいたところでございます。改めて、それぞれの地域・地区の活力を感じています。</p> <p>また、17日は中学校の地域ふれあいデーでございました。それから23日は幼稚園・小学校でございまして、このふれあいデーは3年目になります。「開かれた学校」ということを合言葉にしまして、より学校に関心を持っていただき、親しんでいただける方を増やしていこうと、土曜日曜開催とさせていただいております。</p> <p>17日の中学校の様子を見ておりますと、お父さんとおじいちゃん・おばあちゃんのコンビとか、そしてまた中学校入学前の小学校・幼稚園の子どもさんが一緒に来られたり、本当に多くの世代の方々に学校へ足を運んでいただいていることはありがたいと思いました。実際の子どもの様子を見ていただくことが大きな意義がありますし、それぞれ工夫を凝らした取り組みとして、今後も考えていきたいなと思うところでございます。</p> <p>それから中学校の50周年記念事業で、日野町出身のアーティスト、DORAGON76さんの実演・実技と語りという形で発表していただいたわけですが、20分・30分の間に1枚の立派な作品が仕上がりました。</p>

	<p>これを生徒たちの昇降口をよく見えるところに掲示しておきたいというのが学校の意向でございました。生徒たちも、改めて自分たちの卒業生の中でこのような活躍をしておられるということに、大変関心・感動をしたということをお聞かせいただいております。</p> <p>11月12日ですが、第2回の人事主事訪問がございました。これは例年、県の教育委員会教職員課の人事主事の学校訪問を通して、それぞれ校長の校内人事等についての要望等を聞き取るということでございます。また教頭・校長への昇任についての推薦や異動についての話をさせていただいたところでもございまして、いよいよ3学期になりますと本格的な人事についての動きが始まっていくわけでもございます。教職員の異動というのは最大の研修であるといわれています。活力ある学校、資質向上に努めていきたいと思っております。</p> <p>それから13日・14日が近畿ブロックの教育長会がございまして、6つの近畿の都道府県の各教育委員会のそれぞれ正副の会長2名ずつ出席しました。会場としましては奈良県の明日香村でございまして、キトラ古墳で有名などころですが、そこで研修させていただきました。特に次期指導要領にかかる進捗や教育課程や時間割の組み方などについて、それぞれの市町村の取り組みの交流をさせていただいたところです。</p> <p>それから昨日28日ですけれども、滋賀県の町村教育委員会教育長の理事会がございまして、日野のふるさと館で開催させていただきました。愛荘町とか犬上郡の教育長さん方に日野の方に来ていただくということはあまり機会がないのですが、改めて日野の自然や歴史について理解を深めていただいております。</p> <p>先になります、今週末、12月1日に青少年意見発表会がございまして。今年はおたむきホールで開催します。特別発表としまして、中学生広場で県議会の議長賞を受賞した作品についても発表いただくということで、しっかり取り組んでいきたいと思っております。またご出席の方よろしく申し上げます。私からは以上でございます。</p> <p>続いて、各課からの報告を学校教育課から順次させていただきます。</p>
各課長	(各課から報告)
今宿 教育長	ただいま経過報告について報告いたしました。ご質問等ございましたらご発言いただきたいと思います。

<p>谷 委員</p>	<p>今月はいろいろな行事があって、あちこちに参加させていただいたので、気づいたことというか、気になったことを報告させていただきたいと思います。</p> <p>まず昨日の午前中に教育相談センターにお邪魔してまして、その時、日野小学校の子どもたちがゾロゾロ出て来て、これはマラソン大会だと思ったのですけれども、日野小学校は街中にあるので、どの辺のコースを走っているのかなということが知りたかったのと、毎年の行事なので、子どもたちの安全はもちろん学校側も注意して見てくださっていると思うのですけれども、過去今まで事故に巻き込まれたとか、怪我人が出てしまったとかいうことはなかったのかなと1つ思ったことと、中学校のふれあいデーにも参加させていただいて、授業を参加させていただいた時に、子どもたちの何人かが、机に寝そべりながら授業を受けているというか、姿勢を保てない子どもたちが何人かいるなというのが目について、気になりました。</p> <p>それから、ある3年生の教室の後ろに張り出してあった生活の目標を見ていたら、「早く寝る」とか「早寝早起きをする」という目標を、30人ほどのクラスの中で8割～9割の子はみんな「早く寝て早く起きる」みたいなことを書いていたので、なんか、睡眠が足りてないんだというのが心配になったところでした。</p> <p>あと、小学校のふれあいデーの時には、各校それぞれの特色の授業をされていたのですけれども、私が特にいいなと思ったのは、桜谷小学校の4年生の教室と、南比小の6年生の子どもたちがスマホとか携帯とかネット社会とのつながり方の授業をされていたので、先月、中学校でも講師の先生をお迎えして講演会を開いておられましたけれども、小学校でも定期的に繰り返しそういう指導を、ネットは怖いというか、使い方によっては危ないよという啓発をしていく授業というのは、やはり大事だなと思いました。</p> <p>それから、南比小学校に放課後お訪ねする時があって行ったら、その日の給食のご飯が余ったとかで、おにぎりをつくって、ラップをかけて、職員室に置いてあって、持って帰らせてもらったのですけれど、これは調理実習とかがあって余ったのですかと聞いたら、いや、その日の給食がキューバ料理で、黒豆ご飯というものだったので、それが思いのほか子どもたちに不評だったらしくて、大量に余ったので、おにぎりにしたのですということ、職員室に山のように置いてあったのですね。</p> <p>私としては、完食はその日のメニューによってできるとかできないと</p>
-------------	---

	<p>かあるのでしょうかけれども、こんなに残っているのだというのがちょっとショックで、給食も好き嫌いがあるので、無理して食べてどうこうというのもどうかと思うのですけれども、なるべく残さないようにという完食指導みたいなことはきっとされていると思うのですけれども、実際、日野町の給食の残食率というか、どのくらい出ているのだらうというのが気になりました。</p>
今宿 教育長	<p>ご飯は試食されましたか。どんな味でしたか。</p>
谷 委員	<p>ニンニクが入っていたのです。それに黒豆があつて、きっとイメージしたものとは違うものだったのですね。</p>
今宿 教育長	<p>お子さんは家で何か言われましたか。</p>
谷 委員	<p>言っていました。黒いご飯だったって。</p>
今宿 教育長	<p>その点について参事、まず、マラソンのコースから。</p>
山添 参事	<p>日野小学校のマラソンコースの距離は、低学年は、学校の周りを回って、運動場を戻ると1キロになります。中学年は2キロ、高学年は、3キロとなっています。中学年以上は、河原地先の道路をマラソンコースとし、マラソン大会当日だけでなく、練習（試走）の日も警察に届けて、安全面の配慮をしています。</p> <p>場所によっては、たくさんの車が行き来するところもあるので、安全面の配慮が必要なポイントには教師を配置し、子どもたちへの安全面の配慮をします。</p> <p>今まで大きな事故に巻き込まれたような例は聞いていませんが、路面の窪みに躓くなどはあったかと思えます。子どもたちが走る前には、教員が路面状況の確認をしています。時々こけるなどにより擦り傷などの小さな怪我があったという状況です。</p> <p>次に、中学校の生徒の姿勢について、背筋の低下によるものなのか、自分の姿勢を保持し続けることが難しいお子さんもいます。学習の終わりまで、姿勢を保つには、一方で生活リズムを整える指導が必要であると思えます。夜遅くまで起きていて、学習時間中に眠くなり姿勢が崩れれば、先生方からこまめに声かけし、姿勢を直すよう注意喚起をしています。</p>

<p>高橋 委員</p>	<p>ネット社会では、インターネットやSNSをめぐる危険な状況に巻き込まれるなどについて、教科書の教材として掲載しているものもあります。町でも、生涯学習課と協力し、1学期に各校でスマホ教室を実施したり、中学校では警察に講師を依頼して学習会を開催したりするなど、必要性に応じて取り組んでいます。今後も、発達段階に合わせて、繰り返し指導する必要があると思っています。</p> <p>最後に、普段から「給食の残食は多くない」とは聞いています。しかし、委員さんのお話を聞いて、世界の料理の献立の「黒豆ご飯」が多く残っていたのは、子どもたちが日ごろ食べ慣れていないメニューであったことが残食の原因であったのかなと想像しています。以上です。</p> <p>先般の23日のふれあいデー、3つの小学校に寄せてもらいました。その中で桜谷小学校1時間目は朗読でした。少人数の学校ですけど、大きな声で、少人数ということを吹き飛ばすようなエネルギーが発散されて、非常によかったなと思っております。1人ひとりの子どもさんそれぞれが百人一首を暗記して、ただ暗記しているだけではなくて、百人一首のそれぞれの内容を子どもさんなりに理解しながら言ってるなどか、それからマットが敷いてありまして、そこでバック転の披露をする勢いのある男の子もいたりしまして、非常にいい雰囲気の1時間での朗読でした。</p> <p>そのあと、桜谷小学校には各教室にICTが全部そろっているのですね。私は初めて見せてもらいまして、このICTはすごくいいなという感覚を持ちました。教室の半分ぐらいの大きさ、理科の授業をさせていただきましたけれども、非常に有効に使われていました。授業の活性化を感じました。教材がパソコンと連動していますし、機器そのものの選定がすごくよかったなど。私もいくつか知っているつもりでいましたけれども、これはなかなかいけるぞと思いました。ICTが、これからほかの小学校にも入ると聞きましたし、非常にいいなと思っております。</p> <p>一方、私は実際には見ていないのですが、日野中学校は一部の子どもさんの状況が、心身ともにいい状態ではないということがある模様です。私自身は1学期に授業等々に行かせてもらいましたけれども、現在は事情があつて行っていないわけですけど、例えば家庭科などで外部の方が来られましても、その方々がびっくりするようなことを中学生がすると。学校の先生も非常に一生懸命指導されているのですけれども、話だけ聞いていますので曖昧なことしか申し上げられませんが、ある意味では学校の先生の指導を乗り越えているのかなというようなこ</p>
--------------	---

<p>西村 委員</p>	<p>とも感じました。やはり規律とか基本的なことは継続して指導されているとは思いますが、いろいろな面から補強していかなければいけないのではないかなという思いに至りました。具体的な事象は、聞いているだけです、私は見ていませんので申し上げにくいわけですが、日野中学への支援というのは、全体的にいいのでしょうか、一部の子どもたちの指導と言いましょうか、そういうことが必要だなと感じたところです。</p> <p>それから 50 周年記念事業に参加をいたしました。非常にエネルギッシュな DORAGON76 のお話、よりもあの絵ですね。あのエネルギーが単なる講演よりも実技を伴って、子どもたちの気持ちに、外国まで行っておられて、そして活躍できるんだということを思ってくれた子もいるに違いないと思うのですね。そういう点で非常にいい講師を選んでいただいて、そしていい講演だったなと感慨深いものがございました。以上でございます。</p> <p>要望を 2 点申し上げたいと思います。その前に、先ず報告でございますが、23 日の地域ふれあいデーは、私個人的な都合で出席できませんでしたので、19 日から 22 日にかけて、小学校 5 校と幼稚園 1 園に直接訪問させていただきました。それぞれ校長と面談をさせていただいたり、また学校によりまして現場のご案内をいただいたり、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。</p> <p>その面談と現場案内をいただいたことを通じまして、それぞれの学校が抱えている課題が少し浮き彫りになった感じがいたします。また折に触れてその辺のところは、個別的な問題が起きました時に意見等申し上げたいと思っております。</p> <p>要望の第 1 点目でございますけれども、これは日野町教育委員会というよりも滋賀県教育委員会のことでございますけれども、毎年 11 月 1 日が「滋賀教育の日」ということで、講演を中心としたイベントをやっております。今年は 11 月 3 日に近江八幡で講演をされたのが、たねやグループの CEO であります山本昌仁さん、滋賀のこれからということで、大変有意義なお話であったと承っておりますけれども、この講演の目的なりはわからないわけではないけれども、教育の日の講演をやるのなら、今、教育が直面している課題に直結したテーマで講演をお願いしたいと思うのです。取り上げてほしい、今だったら例えば家庭での教育のあり方とか、ネット社会の中でどういにかかわりをしていくのかということが、学校もそうですし、家庭、一般の方にとりまして</p>
--------------	--

も大変な関心事であろうと思うのですが、そういうことをテーマにしてほしいなと思うのです。

振り返ってみますと、私が教育委員に就任させていただいてから、最初は平成26年度でございまして、まさに学力を正面から取り上げた志水宏吉先生のお話を伺いました。学力を育てるというテーマで、ガーンと正面から取り上げていただきました。

次の年度は野洲でございました。インクルーシブ教育、天王寺の大空小学校の木村泰子先生、本当にインパクトのあるお話で、まさに大変だけれども、しかし地域と学校が一丸となってやっておられるなということでは真に迫るものがございました。

その次の年は草津のNPO法人のD.Live（ドライブ）の田中洋輔さんのお話ですが、不登校と子どもの自尊感情をどう育てていくかというお話、パネルディスカッションも含めて、非常に印象に残るものでした。

ところが去年はNHKのアナウンサーの野村正育さんのお話でしたね。これも大変よかったのですが、ちょっと一般狙いをされたのか、よくわからないけども、私は焦点の当て方が残念だった。今年も見たら「たねやさん」。野村さんやたねやさんがだめだというわけではなくて、非常に有意義ではあると思いますが、やはり滋賀の教育が今直面している問題をもっと切り込んでほしいなという思いでございまして。それを要望として申し上げておきたいと思っております。

それから要望の2点目ですけれども、日野町における学校、教育財産、これに関わる財産処分の審議のあり方について住民の方から私に対して話がございました。今年2月教育委員会定例会で提案がございまして、3月議会にかけるということで、29年度の一般会計予算の教育費についての補正として議案が提案されて、これにつきまして異議なく承認となりましたが、その提案の中身の一部についての件です。議案の内容の説明をいただいて、私としては、その内容は理解していたつもりです。

それは具体的に言うと、日野小学校のスクール農園の土地、これこれの事情で道路の代替として売却ということでの、議会にかける予算のこととして提案されまして、定例会としては承認されたわけですが、それはそれでいいのですが、私に対してその方がおっしゃったのは、学校の資産というものは処分する前にそれなりに処分することの是非について教育委員会で審議しているのかということをおっしゃったのです。教育財産を処分するのだったら、やはり教育委員会委員としてそういう案

件について、予算の提案をする前に、その処分の妥当性を検討しておかなければいけないのではないかという意味でおっしゃったのではないかと私は理解しているのです。

確か法律上は、行政財産そのうちの教育財産、それに関しての処分等は町長の権限でございますね。教育財産を管理運営するのは教育委員会だけれども、処分は教育委員会に権限はないわけですね。とはいえ、そういうことに関してはやはり事前に相談があって然るべきではないかとおっしゃったので、私もそうだなと思いました。けれども法律上はその必要はないとなると矛盾というか、葛藤が起こるのです。

具体的に考えますと、スクール農園は売却されたことによって面積が減って、その分がお金にかわって積立金に加わったということになりまして、バランスシート上の土地が現金あるいは預金に置き代わって、教育資産全体としてはプラスマイナスゼロかもわからない。しかし、現実に資産としての土地が、土地としての機能を生かした用途で使えなくなるというのははっきりしていますので、これはやはり検討すべきだろうなと思うのです。

もう1つは、別の角度からの問題提起となりますが、それぞれの地域の学校は、明治6年から始まって今の姿になってきたのですけれども、その最初できた時からその地域に住んでいる住民が苦勞してその土地を提供し、お金を出し合って学校を建てて来たという歴史の積み重ねがあるという、根底としてそういう話があるわけですね。例えば日野・西大路・鎌掛等、地域によってそれぞれ育ててきた学校というものがあって、それが今の姿になっているのだということになりますね。先人が苦勞して積み上げてきた地域の共同の資産ということになります。それが売却されてお金が変わると、今度は、積立金ということでプールされるのですが、次にそれを使うときは使い道は、積み上げられてきた歴史、学校なり、その基盤である地域は特定されずに使われることになるわけですから、そういう意味では歴史から見てもやっぱりおかしいのと違うかというふうにおっしゃるのですね。

私は、住民の方からのお話を伺って、教育財産を処分するとなれば、教育行政をつかさどる者としては、さまざまな角度から十分な検討をする必要があるということが、よくわかりました。

やはり、権限上のルールはルールとして、実際の教育財産の異動にあたっては、教育委員会に対して事前にお話があってもいいのと違うかということですね。だからこれは法律上のあれこれからいけば、いささか無理を言っているなという面もないことはないのですけれども、住民か

	<p>らお話を承ったことでもございますので、私から要望として申し上げておきたいと思います。以上でございます。</p>
<p>今宿 教育長</p>	<p>ありがとうございます。「滋賀教育の日」のことですけれども、確かに私も27年に、教育委育さんみんなで行かせてもらった記憶があります。そのあとも行きたいなと思いながら、行事と重なり、西村委員さんに代表して行っていただいたことがありました。以前は講演として文科省から来ていただいたり、教育に関すること、教育の本質的な課題についての講演が主であったのですけれども、段々に本来の主旨が変わってきているのかなということも今のお話の中で感じますし、そういうふうなお声も県民の皆さんからあるということで、お伝えしておきたいと思います。</p>
<p>望主 次長</p>	<p>今ほど西村委員さんから言っていただきましたが、教育財産を普通財産に変えて、そして売却をしたということでございます。ほとんど言っていたとおりの、今の新法では行政の長がそのように売り払うことについては問題はないという認識でございます。ただ、今回のことにつきましては道路の用地の代替地という特殊な事情で、日野小学校の用地を提供したということになっておりますので、なかなかその時期について、その前に教育委員会に諮るとするのはタイミング的に難しかったのかなと思います。</p> <p>当時、私も直接その工事を担当しておりましたので、古道次長さんの時にどうだろうという話をして、学校長とお話をしながら進めてきた経過もございました。その時点でそのお話をすることがよかったのかということも含めて、今考えますと、私は事業者として買収の方に回っておりましたので、その辺が教育委員会とどのようなことで、説明があつて然るべきなのかというのは承知はしてなかったのですが、今この席に就きますと、その辺のことについては、すべからく説明することが正しかったのかなと思っています。</p> <p>権限としては長にあるわけですが、その丁寧な説明というのは非常に大事ですので、然るべき時期にやっていくのがベストだったのかなと。今回、2月は単に予算だけですので、それに重きを置いた説明をしていないということが、また何か隠しているような感じも受け取れますので、その辺が決まった時や契約時であったり、予算的にこうしていくことの説明が大事だったのかなと思っています。</p> <p>また、私が経験した件ですが、日野小学校の学林の方で配水池の用地</p>

	<p>買収をさせてもらったことがありまして、その時は学林でしたので、当然、日野小学校の保護者さんの意向でできた学林を運営していて、保護者会として使っていくという趣旨のもとで学林があったので、そこを用地買収させてもらう時には、当然、名義的には日野町ですが、それは日野小学校に使ってもらうというようなお取り扱いをさせてもらった経過もございますので、今の日野小学校の用地につきましても、学校ができた当時ぐらいからの用地ということも承知していましたので、その辺は日野小学校の何らかの整備に使うのが筋だなと承知していますし、町長もそのようなことも言っております。基金に積んでそのまま確保しておこうということは言っておりましたので、その辺については教育委員会としては財産がどのようなことでこのようになっているかという、そういうことはしっかりと受け止めてしていかないといけないと思っています。それがちゃんと日野小学校の分だと聞いておりますので、教育委員会としてもしっかりと配慮した計画をしていかないといけないと思っております。以上です。</p>
西村 委員	<p>今後とも、ひとつそういうことでよろしく願います。</p>
山田 委員	<p>感想と質問になるのですが、11月17日の中学校の創立50周年記念式典では、DORAGON76さんの素晴らしい活動の報告、そして、実際に絵を描かれたのを見て、すごく衝撃を受けました。私はあんな講演会を見るのは初めてで、すごくいい経験をさせてもらったなと思いました。子どもらの中でもすごく感動している子もいたと思います。</p> <p>私たちの目の前に目立った子がいたのですが、少年センターの服部さんと一声二声お話をされているのを見て、つながってくれるんだというのがわかって、なんか安心した面もありました。それが1点です。</p> <p>もう1点は、先ほど教育長のお話の中に、近畿の教育長会にご出席されたということで、その中で教育課程などほかの教育長さんとお話しされたとおっしゃいましたが、今、日野町は新教育課程で増えた分を朝の学習の中に10分ずつ入れていって、時間調整をしているのですが、その辺のお話をされましたか。それが有効的な活用の仕方だと感じられましたでしょうか。その辺お聞かせ願いたいと思います。</p>
今宿 教育長	<p>ありがとうございました。まず、50周年の講演会の時の何人かの子どもたちについては、センターの方でも把握いただいていますし、</p>

	<p>つながっていますので、顔の見える関係で関わっていることができているなど思っています。</p> <p>それから、近畿の教育長会の中では、主に働き方改革にどう取り組んでいるかということと、今おっしゃっていただいた、2020年から英語が小3以上から入ってきますし、今、移行という時期で英語を35時間・70時間するにあたって、総合の時間を使ってもいいとかというのが今の移行の時間なんです。今、日野町では2020年に近づける形で、3年生・4年生は35時間の英語をしていますし、5年生・6年生は50時間しています。それが2020年になったら5年生・6年生は70時間するようにしていくのですが、2020年からは総合の時間は削ったらいけない、そして時間は増えるという、いっぱいいっぱいになってくるわけです。それについては去年ぐらいから、いろいろ実践しながら、それぞれの学校で工夫して取り組んでいただいています。</p> <p>南比都佐小学校については、教職員と話をし、今年から6×5=30時間教えてくれています。</p> <p>それからあとの小学校については、1時間目は45分授業ですがけれども、15分間足して、60分授業にしているのです。それを週3回するというので、15×3で1時間の枠を生むことができるし、その60分授業というのが子どもたちにとって負担でないか、確かめながら移行しています。</p> <p>今は移行時期ですので、経過を聞いている中では、特別混乱はないということです。ただ、時数の確保というのが大きな課題だと思っていますので、今協議中なんです。夏休みの期間を短くする、何日間か早く始めるという中で時数を確保するとかいうことを考えています。いずれにしても、近隣の市町と格差があってもいけないと思いますので、いろいろ情報を集めながら、2019年は取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>ほかよろしいでしょうか。貴重なご意見をありがとうございました。</p> <p>次に、日程5の議事に入ります。</p> <p>それでは、「議第1号 日野町附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定について」を議題とします。事務局から提案説明をさせていただきます。</p> <p>(提案説明)</p> <p>提案説明に対しまして、ご質問などございませんでしょうか。</p>
吉澤 参事	(提案説明)
今宿 教育長	提案説明に対しまして、ご質問などございませんでしょうか。

高橋 委員

今、日野町附属機関設置条例のことで、改正する条例の説明をいただきました。私が教育委員を受けさせていただいて、この教育委員会の場で、かなり「教育」という入れ物の中の仕組みの中で、名称を変えたり、幅広い考え方を持ってくるのかということがかなりなされてきていると思う反面、例えば私もこれまで意見としても述べてきましたが、いじめ対策問題とか不登校の課題への解決として具体的にどういう「見える化」をしているか、可視化をしているかと言うと、必ずしもそれが改正等々によって、より具体的になってきているのかどうか不安な点が私自身は持っています。

今般、日野町就学指導委員会、私は教員あがりですので、非常にこの名前は馴染みが昔からあります。「心身に障がいがある児童および生徒の適切な就学を図るため」と、これをほかの市町がもう既にそうなので、国もそういう方向にベクトルが行っているので、それに倣って私たち日野町もそういうふうにしようと、それはそれで一定いいと思いますけれども、しかし振り返って考えると、今ある日野町就学指導委員会を、これは支援委員会に変えて改正しようとするわけですね。支援委員会の中で「心身に障がいのある幼児・児童および生徒の就学支援および就学前から就学後の一貫した教育支援」と、ものすごく大変な教育の仕事だと思います。必要な事項を調査・審議するというのだけれど、こういうことを言うてはいけないのかもわかりませんが、果たしてそういうふうな枠組みを広げて概念を広げる中で、具体的にじゃあどんな内容を想定しているのか。今ある就学指導委員会の改正にあたって、不十分なところはどのような点にあるのか。じゃあその不十分な点というのはどのように改善していこうとするのか。

さらに支援委員会、これは私も現職の終わりぐらいからそういう文言が使われるようになりました。文科省も使うようになりましたね。一貫した教育支援とは、日野町教育委員会として、もう少し言うと日野町教育委員会事務局としては、どういうふうなことをお考えになっているのか。近隣の市町の動向に合わせて、そこをそういうふうな言葉で変えるということだけだったら、あまり意味はないなと思うのですね。具体的にどうするのか。新しく就学前から就学後の一貫した教育支援、例えばどういうことをされますか。教育委員会として。その辺のビジョン、その辺がもう少し可視化したところで語っていただきたい。

今、日野町教育委員会の構造というのは、私がいた何年か昔とは違ってきて、非常に充実してきていると思います。けれども、就学指導とか、

	<p>名前が支援に変わりますけれども、ここの主担当、責任を持ってされる参事さんなり課長さんなりは、どなたなのか。ほかの部分もそうですが、率直に申し上げまして、失礼かと思えますけれども、見えづらいのですね。そのあたりまず思いを言っていただけるとありがたいと思っております。</p>
望主 次長	<p>就学指導のことにつきましては、今現在 18 名でやっております。就学というのは当然、学校に行って、そして社会に出ていくという最終目標がございますので、そこを睨んだことで考えていかなければいけないということで、子どもの就学前から、そして就学後も含んだ、その子が社会人になっていくためのゴールを見極めると、そのような、学校へ行く前、そして学校時代、そして学校後、そういうイメージを描いた中で就学の指導をしていくというのが主旨かなと思っておりますので、就学の指導は、どこへ行くかというだけでなく、そういう全体的なゴールを見ながら支援をしていくということで、支援委員会というのが今現在そういう動きになっているのかなと思っております。</p> <p>現在、ほとんどの町で名称は変わってしまして、教育支援委員会という組織もございますし、就学支援委員会ということで、指導と支援を変えたところも多くございますので、あと残っているのが3つぐらいの市町がそうなっていますので、主旨としては、ゴール、社会人になっていく姿を見極めながらということで、今回このようなことを思っています。</p>
今宿 教育長	<p>高橋委員さんが参事の時は、1 人ですべてを担っていただいていたので、どれも参事さんが主担当だったと思います。今年は林課長補佐が就学の指導については担当してくれています。</p> <p>非常に大事な委員会です。法の改正の中で就学先については専門家が調査研究した答申をもとにそれぞれの学校が保護者さんと話し合いをして、最終、進路先を決定されるのは、保護者さんの意向を最大尊重することになっているのが現実です。就学の指導というよりは、就学の後もいろいろなケースなり内容なりについて支援するため、言葉としても「就学指導」というよりは「就学支援」の方が内容的・中身的にふさわしいという考え方があります。</p> <p>それから、それに合わせて、内容を少し膨らませていく、就学前から就学後の一貫した教育支援、これは本当に大きな課題であります。でもこれはしなければならぬことなので、それぞれ校種別に指導計画を学</p>

<p>高橋 委員</p>	<p>校ごとにつくり、校種が変わって小学校から中学校に行った時に情報がきちんとつなげ、一貫した個別の指導から、さらに個別の支援計画、その人の成長をずっとつないで見るが必要になってきているわけです。そういう思いを入れていくべきだという考え方で、今回このような改正をさせていただきたいと思っていますところ。</p> <p>長話はいかんと考えておりますので、端的に申し上げますと、このように枠組みが広がって、それを良しとしてさらにこれを充実させようと、本気でこの 24 人の方々が思っただけなければならないと思います。ポイントはやはり、就学前から就学の時の委員会なりの名称はいろいろあると思いますが、充実ですね、私もそういう立場にいるときは本当に揺れ動きましたよ。どうなのかなと。</p> <p>それから、就学後あるいは社会に出るときに、現実は何のすごい壁がありますよ。そういうこともこのメンバーの 24 人の方々がどの程度真剣に自分のものとしてお考えになっているのか。そのあたりはリーダーシップを取っていただきたいと思います。何事もそうですけど、少人数の委員会というのはやはり緊張感がありますよね。人数が多いと、そこまで自分たちが考えなくてもいいや、他の人が考えてくれるかというようなことになっては、せっかく充実させていこうという流れに、中身としては逆行しかねない部分も思われますので、その辺につきましてはこの 24 人のメンバーの方々にこの文言の意味すること、そして具体的にどういうふうにすることが、Aさんにとってプラスになるのかということを真剣に考えていただきたいなと思っています。どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>望主 次長</p>	<p>今ほどのご意見、大変ありがとうございます。現在 18 名いる委員に、あと 6 名増やすという内容につきましては、養護学校の教師が 1 名と、今事務局として子育て相談センターの赤尾先生ですが、専門的見地から独立した委員さんになっていただいた方が意見も積極的にいただけるかなと思っています。それと中学校から 1 名の先生、そして通級教室の先生を 2 名という、中学校の先生は、6 年生から中学校に行く時にもそのような子どもさんの数も増えていきますので、チーム分けをして班編成をしているのですが、その数が増えてくるとなかなかしっかりした見方が、人が増えてくると大変になってきますので、それを人を増やして、細かい視点で見たいこうと思っていますので、しっかり指導をしたいと考えています。</p>

<p>今宿 教育長</p>	<p>ありがとうございます。教育委員会と教育相談センターの臨床心理士さんとの懇談会を定期的に行っているのですが、この臨床心理士さんの中には日野町と他県と兼務しておられる方もいらっしゃるのですが、町の就学指導は非常に充実しているということをお聞かせいただいています。それが十分にできないと、1年生に入った時にすごく落ちつかない状況が起こってきますが、町の小1の子どもたちは比較的スムーズに学校、また支援学級などでスタートできています。</p> <p>委員さんにはお医者さんも入ってくださったのですが、日野町の先生は来てくださるので、本当にありがたいです。皆さん一生懸命観察したうえで答申してくださっているの、おっしゃっていただいたポイントについてはしっかり伝えながら取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>ほかにご質問、ご意見等ございましたらお願いします。よろしいでしょうか。</p> <p>他に質問やご意見も無いようですので、承認することとしてよろしいか。</p> <p>それでは、「議第1号 日野町附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定について」を承認することとします。</p> <p>次に、「議第2号 平成30年度日野町一般会計補正予算（第4号）（教育費）」を議題とします。事務局から提案説明をさせていただきます。</p>
<p>望主 次長</p>	<p>（提案説明）</p>
<p>今宿 教育長</p>	<p>ただいまの提案説明に対しまして、ご質問などございませんでしょうか。</p>
<p>高橋 委員</p>	<p>昔からこういう形式の予算書の見方が非常に苦手なところがありまして、今、7ページの歳出、補正前の額が教育費は13億円、そして補正額の内訳のところの特定財源、△5,300万円ですね。△は今そうなったという意味ですか。</p>
<p>望主 次長</p>	<p>△は、基金を繰り入れで計上しておいたのですが、これをすべて、特定財源ですので、基金で当て込んでいたものを町税の収入が多くなったので、これを繰り戻して、一般財源で予算化したということです。</p>

高橋 委員	町としての基金というのは、毎年ある一定額なのかわかりませんが、そういうものを貯めておられるというふうに私は理解すればいいわけですか。
望主 次長	<p>先ほど言っていた教育整備の基金ですので、何かあった時にその基金を取り崩して教育施設をつくったりするのですが、通常はそういうものはあまり手をつけずに、基金として何かの時に置いておくのですが、平成30年度の予算を編成する時に、財源的になかったので、それを取り崩して教育財産の予算を執行するのに当て込んでおいたのですが、町税の収入がたくさんあったので、それをもう1回基金へ繰り戻して、その分の財源が生み出せたので、それで手当てをしたということです。</p> <p>町税が2億1,000万円、当初見込んでいた以上にお金が入って来たので、基金はそのまま返して、その税金を使うということをさせていただきました。</p>
高橋 委員	<p>わかりました。</p> <p>ですから、そういうよき面ですよ、そういうのをやはり次年度の教育予算編成のところでまた活かしていただけるとありがたい。</p> <p>ちょっと話が転じますが、私は時々、桜谷幼稚園・こども園・小学校へ行っていろいろしゃべったりしているわけですが、こども園のゼロ歳児があそこも増えてくるだろうなということで、今は法律的には3対1の割合、現実で言ったらもう2対1でやらないとやりきれないと、それが生の声だなと思います。こちらでそういう財源があるということであれば、それはそれで関係部署で認定こども園の人員配置をされると思いますけれど、例えば桜谷こども園ですと人員配置はなかなか複雑で、しかも嘱託さんが減ってきて、パートさんが増えてきているということもあったりする中で、私が感じ取ったのでは、ゼロ歳児さんも受け入れなければならぬのだけれど、人員配置が次年度はどういうふうになるのだろうなど。国の基準がありますから、それに沿っていかねばならないわけですが、少しでも手厚い割り当てを、できるものならまわしていただけるとありがたいということも感じております。</p>
宇田 課長	<p>ありがとうございます。子ども園につきましては大変今厳しい状況で運営をしていただいているということも身に染みて感じております。実は今日なんです、ずっと人を募集していたのですが、桜谷子ども園に嘱託さんが1名応募してくださったので、来週にでも急いで面接をし</p>

	<p>て、できるだけ早く現場に出ていただくようにしたいと思います。</p> <p>また子ども園のゼロ歳児の問題で、3対1ということで現場は大変な思いをしていただいているのですけれども、実はゼロ歳児というのは4月にパッと集まるわけではなくて、今年確か桜谷子ども園ですと8人くらいゼロ歳児がおられるのですけれども、その3人くらいが4月から来て、あと9月・11月・12月と随時、産休明けに入ってこられるということなので、ちょうど今頃全部が出揃って厳しくなる時期なのかなというのがあります。ただし、4月から入っている子どもさんは段々慣れてこられるので、そこはうまくやっけていただいている部分もあるのかなと思います。今ご意見いただいたことも参考にさせていただきたいと思います。</p>
今宿 教育長	<p>ありがとうございました。ほかに。</p>
西村 委員	<p>聞き漏らしたのですが、地区公民館の事業の880万円、西大路と必佐ということで、内訳をもう一度お願いします。西大路は駐車場でしたか。</p>
加納 参事	<p>西大路の駐車場は、手元に資料がなくて申し訳ないのですが、約376万円ぐらいで、柵と外灯を追加させてもらう工事です。もうすぐ入札がありますが、その工事は外壁と砕石舗装の工事です。</p> <p>必佐公民館は、農業構造改善センターと社会教育施設がくっついている建物で、事務所側が社会教育施設で、そちらの研修室と和室のエアコンがかなり悪いということで、改修させていただきます。</p>
西村 委員	<p>ありがとうございました。</p>
今宿 教育長	<p>ほか、いかがでしょうか。</p> <p>他に質問やご意見も無いようですので、承認することとしてよろしいか。</p> <p>それでは、「議第2号 平成30年度日野町一般会計補正予算（第4号）（教育費）について」を承認することとします。</p> <p>それでは、次に日程6の今後の予定等について、学校教育課から順次説明をさせていただきます。</p>
各課長	<p>（予定説明）</p>

<p>今宿 教育長</p>	<p>今後の予定の説明が終わりましたが、ご質問などございませんか。 次に、次回の委員会日程について、事務局から調整をさせていただきます。</p>
<p>吉澤 参事</p>	<p>(日程調整)</p>
<p>今宿 教育長</p>	<p>次に、日程7のその他に移ります。何かありますか。 ないようですので、その他委員さんからございますか。 ないようでしたら、以上をもちまして、定例会を終了します。</p>